

発行 日本音楽療法学会

理事長 日野原重明 副理事長 村井 靖児

事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-20-8 浜松町一丁目ビル 6階 TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337



第8回学術大会を終えて

大会長 村井 靖児（副理事長）

夜は、音大側から理事長、学長など大学幹部の先生方にご参加いただき、約400名の会員が参加した和やかな交流会でした。昼間のワークショップでアフリカの太鼓を実演してくれたB.B.モフラン氏の仲間たちがゲストとして来場し、後半は別室に移って、アフリカ音楽のリズムとパワーを堪能する会になりました。

最終3日目は、大会長講演に始まり、その後は研究発表（2日間で口頭発表88題、ポスター発表55題）と、同時開催された「音楽療法のバイオニアの臨床を見る」セッションが松井紀和氏司会で行われ、総会を挟んだ午後からは、一方で研究発表、もう一方で川田順造氏による「『音文化』という考え方をめぐって」の教育講演がありました。そしてこのセッションを最後に、全日程を終了しました。

本大会の全体を振り返りますと、第1に、基調講演、大会長講演、教育講演など、今回の大会テーマ「音楽療法の学と術～専門職への道のり～」関連の各講師の話を総合しますと、世界の音楽療法は、この10数年の間に大きな様変わりをしており、そのことは、日本においても、音楽療法の技法や構造の面で大きな変革となって早晚現われてくるという予想を強くもちました。

第2は、第1との関連で、今回の研究発表の中にも、疾患を中心に音楽療法の方法を開拓しようとする新しい研究の方向が見え始めていることで、我が国でも急速に音楽療法の世界が拡大・多様化し始めていることが実感されました。つまり、既存の心理療法の理論を何でも借りてくればよいというこれまでの態度から、音楽療法独自の手法を確立しようという意気込みが少しずつ見え始めていることでした。

第3は、別の側面として、特別企画「音楽療法のバイオニアの臨床を観る」に、多くの会員が集まり、参加者が、しばし、その当時に「懐かしみ」、「安らぎ」、「再出発」への気持ちを波のように高まらせ、その気持ちが会場全体に広がっていることを感覚したことです。一つの節目が確かに来ていることを実感しました。

そして第4に、今回の大会では、会場のどこに行っても、会員の皆さんの楽しそうな笑い、生き生きとした満足そうな表情が満ちていたことです。日本の音楽療法も、全国組織になって20年がたち、やっと成人になったのだと感慨を強くしました。

今この報告を書きつつ、この大会は参加した会員皆の気持ちに支えられたと考えています。準備に明け暮れた関東支部の役員の方々、手伝いくださったボランティアの皆さん、参加してくれた会員の皆様、そして下八川理事長、五十嵐学長を始めとする昭和音楽大学の職員の皆様、有難うございました。

来年の大会は、四国松山です。また松山でお会いしましょう。

会員の皆様、お元気ですか。

神奈川県川崎市の昭和音楽大学で8月29日（金）から31日（日）にかけて開催されました第8回日本音楽療法学会学術大会は、3日間の大会日程を無事終了し、盛会裏に幕を閉じることができました。これも一重に全国の会員の皆様のご協力によるものと、心から感謝しお礼を申し上げます。

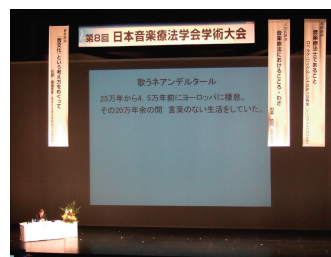
本大会の開催に際しましては、会場のキャパシティの関係で、1,800という人数を守らなければならず、参加を希望される方全員のご希望に添うことが出来ませんでした。多くの会員の皆様にご不快な思いをおかけさせ致しましたことを、この紙面をお借りし、心からお詫びを申し上げます。

さて本大会は、倉敷、名古屋、仙台、札幌と回ってまいりました全国大会が、5年振りで関東にやって来るということで、関東支部役員が総出で準備に取り組みました。日程、大会テーマ、プログラム、講師陣、機材の手配、部屋の割り振り、動線の確保など、皆様に不便がかからないよう最大努力をいたしました。

大会の進行について述べますと、大会初日の講習会は、その前夜、生憎付近を通過した台風の影響で、雨が少し残るスタートとなりましたが、東京都心から交通至便を誇る新築された昭和音大キャンパスには、早くから会員の方がお集まりになり、定刻10時から、6領域、各1時間半4講の長い講習会がスタートしました。受講したい講義は、領域通しでとっててもよく、また24コマの受から自由に選択してもよい時間割にしたことが、専門領域を詳しく勉強したい方にとっても、聞きたい先生の講義を聞き歩きたい方にとっても自由度のあるプログラムではなかったかと思えます。資料が大変整っておりまして、お役に立てたと考えます。

第2日目は、昭和音大OBの有志による眠気を吹き飛ばすブラス演奏で幕が開き、日野原理事長の挨拶のあと、イースタンミシガン大学のロベルタ・ワイグル・ジャスティス女史による、「音楽療法士であること」という基調講演が行われました。30年間に及ぶ音楽療法士としての、また教育者としての経験をもとにした内容の濃いお話は、先進国のよき先輩の話として、アメリカの音楽療法を過去から現在まで総めくりしたもので、会員に好評を博しました。

午後からは、研究発表と同時に5つの自主シンポジウムと6つの分科会が平行して行われました。シンポジウムと分科会は本大会の目玉の一つとして取り上げたもので、音楽療法の当面するさまざまな問題を深く考えたい人、ベテランのセッションをビデオで見た人、ワークショップ参加を希望する人など、様々な会員の期待をこの学会での時間で満足して頂くとした苦心の作であり、廊下まではみ出るほど盛況な会場も幾つかあり、ご期待に添うことができたことと喜んでおります。



第9回日本音楽療法学会学術大会に向けて —第一次案内—

大会長 板東 浩

日本音楽療法学会が発足し、最後に四国支部が設立してから5年、本支部はまだ未熟ではありますが、このたび第9回大会を主催させて頂くことになりました。全国大会のお世話は各支部持ち回りと決まっております、一番小さい支部ではありますが、お引き受けすることと致しました。四国の中でもアクセスや宿泊に利便性が高い松山市での開催を決定し、下記の日程で、現在、さまざまな準備を進めております。

◇ ◇ ◇

記

- ・日時：2009年9月11日（金）～13日（日）
- ・会場：愛媛県民文化会館（愛媛県松山市）
- ・大会長：板東 浩（日本音楽療法学会四国支部長）
実行委員長：藤井澄子、事務局長：稲浦 調
- ・大会テーマ：「音楽療法の源流を求めて」
～音のゆらぎ、心のゆらぎ～
- ・基調講演：日野原重明
- ・特別講演：池辺晋一郎
その他多彩な講師陣を予定しております。
会員の皆様方にとって有意義で楽しい学術大会となるように、次のご連絡をさせていただきます。
- ・メイン会場は3,000人を収容でき、多数の会員が参加し、多くの演題が発表されるように現在検討中です。
- ・松山へのアクセスは、羽田から12便の飛行機その他、JRや船の利用、各地（東京・名古屋・京都・大阪・神戸・福山等々）から高速バス等があります。
- ・宿泊は、会場から徒歩10分の道後温泉（複数宿泊）他、市内には多くのホテルがあり、ご希望によりいろいろなタイプが選択できます。なお、道後温泉は1部屋の利用人数が多くなるほどお得となります。
- ・大会案内が到着したら、早い時期に申込みをされますようにお勧めいたします。

以上

◇ ◇ ◇

松山は俳句の街そして文学の街でもあり、俳句甲子園も行われています。正岡子規が野球好きで、本名の昇（のぼる）から「野ボール」→「野球」となったエピソードが知られています。道後にある子規記念博物館を訪ねてみたり、この学術大会を機会に、城下町松山の文化や芸術に触れたりして、

心豊かな気持ちになってみませんか。

また、四国は八十八ヶ所所周知、お遍路さんのお接待の心が広がっている風土です。皆様がいらっしゃる道中、お遍路さんを見かけることと思います。ホットする「愛ランド」だなあ、と感じられるかもしれませんね！

◇ ◇ ◇

ここで、心身ともにポカポカと暖まる温泉療法に関わるトピックスを紹介しましょう。

歴史を振り返ると、ギリシャ医学の祖ヒポクラテスとアリストテレスが、温水と冷水を用いた温冷交互浴を試みました。ローマでは皇帝が公衆浴場を設け、健康・保養のために体操も併用したのです。その後、温泉の発見とともに水治療が欧米に広まって温泉療法につながり、現在注目されている統合医療にも影響してきています。一方では、海洋療法（タラソセラピー）の方向にも展開したのです。

実は、四国でも興味深い記録があります。明治26年6月、現在本四架橋がある徳島県鳴門市で、実は、海洋療法と音楽療法が始まったのです。海岸に隣接する天羽病院の大造院長は、患者と看護婦に海水浴を実施しました。その情景は「病院で使った5、6人の看護婦は、一流芸者を引き抜いてきたもので、入院患者たちは、三味線のつま弾き、粋な小唄を聞かされながら療養、心やわらいて退院したと伝えられる」とあるのです。

以上のように、先人からいろいろなインスピレーションを感じ、音楽療法がより深く豊かになればいいですね。是非とも、四国松山においてください。関係者一同、心よりお待ちしております。



道後温泉本館の木版画
(愛媛県美術会版画部常任評議員 高橋 基 (松山市) 作)

■ 日本音楽療法学会 研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会

委員長 加藤 美知子

2007年度の講習会から、音楽療法の臨床の原点に立ち返ることを企画の中心とし、特に初心者・中堅の学会員の方たちが、じっくりと基礎の学習・復習をするという内容になりました。前回は、児童領域を中心とした音楽療法概論および観察のポイント、そして高齢者領域では音楽の使い方がテーマとして取り上げられましたが、受講者のアンケートには、テーマの継続と臨床の基礎を是非シリーズ化してもらいたいという声が多く寄せられました。

今回は、ビデオ、音、実技を通して、児童領域のセッションの実際や観察のポイントをさらに具体的に学習し、そこからいかに目標を設定し、プログラムを組み立てていくかについて学んでいきます。また、個人セッションのケースを紹介しながら、対象者理解やアセスメントについても触れていきます。

一方、高齢者領域では、集団セッションにおける目標設定を重点的に取り上げます。「QOLの向上」「コミュニケーション能力の促進」などといった、余りにも漠然とした目標設定をするのではなく、どのように集団の課題や問題をとらえ、具体的でかつ現実的な目標を設定していくかということ、受講生の皆様とともに学んでいきたいと思えます。

なお、今回2日目の午後には、国際交流委員会による「アジア音楽療法シンポジウム in Japan 2009」が開催されます。多くの会員の方々のご参加をお待ちしております。

2009年、月・日・時間	内容	講師・司会
3月7日(土) 12:00	受付開始	
13:00~13:10	開会挨拶	委員長:加藤 美知子
13:15~15:00	児童の音楽療法 —関与と観察—	土野 研治 (日本大学芸術学部)
15:15~16:30	児童の音楽療法 —アセスメントと目標設定—	土野 研治 (日本大学芸術学部)
16:40~17:00	質疑応答	
3月8日(日) 9:00	受付開始	
9:30~11:30	高齢者の音楽療法 —集団セッションにおける目標設定—	武田 千代美 (釜瀬クリニック)
12:45~14:45	アジア音楽療法シンポジウム in Japan 2009 テーマ:アジアにおける音楽療法の 実践と教育	パネリスト: ヒョン・ジュ・チョン (韓国) ブッサコーン・サムロントーン (タイ) スマティ・スングール (インド) ティアン・ガオ (中国) パツィ・タン (シンガポール) 佐治 順子 (日本)
15:00~16:30		

* 会場は、例年通り東京都千代田区一ツ橋の日本教育会館です。詳細は、後日お手元に届く案内をご参照ください。なお、講師の都合により変更が生じることがあります。その際は悪しからずご了承ください。

第12回世界音楽療法大会 印象記

国際交流委員会委員長 佐治 順子

3年ごとに開催される世界音楽療法第12回大会が2008年7月22日-26日に、タンゴ発祥の地であるアルゼンチンのブエノス・アイレス市で開催された。大会のテーマは、「音楽、文化、音、健康」であった。会場は市の中央高台に位置するパルテノン宮殿で、現在は国立ブエノス・アイレス大学法学部が一部を校舎として利用しており、地下階には学生食堂も設置されていた。大会の受付会場には、左右に巨大な人物石像が一体ずつ置かれ、メイン会場には正面壁に大きな歴史的絵画が飾られ、絨毯敷きの座席に左右階段式席で、かつては国家の重要な集会の場であり、会議場であったことが偲ばれる建物であった。このような歴史的遺産建造物を現在も実際に利用し、かつ第12回世界音楽療法大会の会場に無償提供してくれるブエノス・アイレス大学の学会への理解と大会実行関係者の尽力に対し、心から感謝の意を表したい。

世界音楽療法連盟 (WFMT) 会長であり、ブエノス・アイレス大学音楽療法コース学科長である Dr. G. Wagner 氏によれば、「本大会の参加者は合計で約1,200人、その中約500人が南アメリカ大陸からの参加で、残りの約700人がその他の国々からの参加であり、前回よりも参加者数が多かった」とのことである。とりわけ、地元参加者に対する配慮として、多言語間の相互理解の体制がしっかりしていて、今回の公用語であるスペイン語と英語間の同時通訳、あるいは逐語通訳が全ての会場に配置されており、主催者の学会に対する熱意が感じられた。それは、筆者が、かつてオックスフォード大学で開催された第10回大会から 連続3回の口頭発表の機会を得たが、第10、11回とも公用語は、開催国が英語圏であったせいか、英語のみであったことと対照的であった。筆者が実行委員の一人に聞いたところでは「通訳者たちは MT ボランティアではなく、専門の通訳者である。従って大会予算の大半はその費用に使われたために、プログラム印刷 (A5版に縮小) や昼食費などは極力切り詰めた」とのことであった。これは、今大会の1/3以上の出席者が南アメリカからの参加であったが、彼らにとってはまことに有効なサービスであり、それ故に、今大会は、音楽療法を英語圏だけでなく国々の音楽療法士らとも共有できるすばらしい場を提供したという意味で画期的な催しであったと思う。

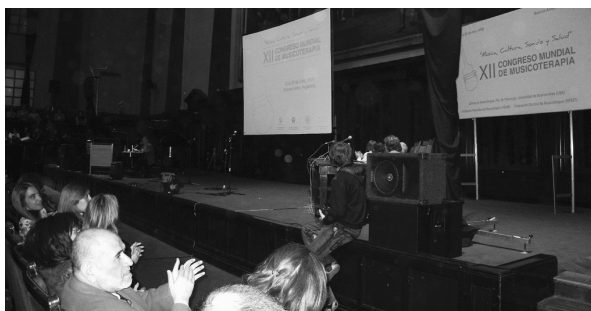
第1日目の受付と開会式典に続いて、第2日目から第5日目まで、毎朝9:00から全体企画(4件)、10:45から口頭発表(約220件)、その他ワークショップ、ラウンドテーブル、シンポジウムが大小18会場で開催された。また第2日目から

第4日目まで10:45と16:15からポスター発表(約105件)が展示場ホールで、そして毎18:15から特別企画、タンゴの歴史や即興リズム演奏などの音楽活動も好評であった。中でも日本の大会と異なる点は、口頭発表の時間が質疑を含めて45分用意されていたことである。さらに発表後30分間の休憩が随時配置されていたため、発表後の質問にもゆっくり意見を交わすことが可能であった。たとえば筆者の場合でいえば、発表場所が同時通訳のあるメイン会場であったため、45分間に十分に話すことができたし、仮に逐語通訳の会場での口頭発表であったとしても、20-25分は話すことができ、発表後も休憩時間を利用して質問応答が確保されていることである。

第12回大会では、日本人の活躍も目立った。口頭発表が8件、ポスター、シンポジウム発表も8件あり、年々発表数と共にその内容も充実してきたと評価されている。大会への参加者は合計で20数名と思われ、アジア圏の中では最も多い参加であった。

一方筆者は、2005-2008年 WFMT の臨床実践委員長と大役の役員も担っていたので、今回の世界大会の運営面についても報告しておく。2006年秋に締め切られた抄録は500件以上であった。その査読審査に2007年12-1月、WFMT 役員全員も分担協力した。実際の大会実行委員会は、アルゼンチン音楽療法学会とブエノス・アイレス大学心理学および音楽療法学科の教員および学生が担当した。大会発表者への最終合格通知が、大会約1ヶ月前であったこと、会場に見取り図がなかったことなどは、全く気にもしておらず、これもアルゼンチンのお国柄とでもいえそうである。大会期間中に開催された WFMT 役員会議は、毎回3-6時間に及ぶもので、第1、第2、第4日目に実施された。それは、これまで懸案となっていた WFMT 組織の再編成や、開催国申請時期などに関する規約改正が審議されたためであった。そして第13回大会は、2011年7月にカナダのトロントで開催されることが決定した。2014年に開催される第14回大会の開催国と日時申請は、今回の規約改正により、開催4年前、つまり2010年7月までに開催立候補の届けを WFMT 会長へ提出しなければならない。翌2011年に開催される第13回大会の第1日目に、計画案に基づくプレゼンテーションの後、最終決定される。

この3年間 WFMT の臨床人選委員長として、第12回大会や規約改正、次期 WCMT 開催国などの重要審議決定に関わらせてもらい、WFMT 役員たちが日本を含むアジアでの世界大会開催を、心から歓迎していることを強く感じた。



北海道支部 ——— 近 況 ———

支部長 久村 正也

全国の会員の皆様、こんにちは。北海道支部近況をお知らせ致します。

設立6年目の当支部は小粒ながらも会員数200名を超え、着実な歩みを辿っております。

昨年は少兵を省みず、第7回大会（札幌大会）を開催させて頂き、全国の会員皆様の温かいご支援によりこれを成功させ、意気揚々の昨今であります。

支部主催の研修会は年2回開催され、いずれも一般講演、教育講演、特別講演、シンポジウム、ワークショップなどを巧みに組み合わせた密度の濃い内容を心掛けておりますが、特記すべきは、音楽療法士に必須の医学知識および関連する他の心理療法の学習講座を設けていることでもあります。幸い、この方針は支部会員諸氏に好評を博しております。

今年度は去る5月25日に支部総会を開き、過年度・今年度の運営状況、事業予定などの承認を頂き、役員一同力を合わせてその実行に汗を流しているところであります。

支部総会日に併せて第13回研修会を開催し、10月26日には第14回の研修会を持つ予定であります。

支部ニューズレターの発行も順調で、現在14号に達しました。

さらに、支部ホームページのアクセス頻度の伸びも堅実で、この領域について多くの方々の関心の高さが推し量られます。

私ども北海道支部会員は、国家資格化問題の行方に多大の関心を寄せながらも、音楽療法士として、またそれを目指すものとして日夜切磋琢磨しているところであります。

今後とも北海道支部を宜しくお願い致します。



東北支部 ——— 近 況 ———

支部長 智田 邦徳

みちのくでは待ちに待った稲刈りの時期をむかえ、横並びに穂を干す「はせがけ」や、一本の立ち木に蓑傘のように積んでいく「棒がけ」などの光景を見て、本格的な秋の到来を感じております。山であけびをとってきたよ、という子供たちからの報告もありました。

今年度より役員が新しくなった当支部では、去る6月7日、8日に開催された第8回支部大会が最初の大きな仕事でした。実行委員会としては万端の準備を整えたはずでしたが、会場側のミスにより基調講演の最中トラブルが発生。参加した皆さんと講師の先生にご迷惑をかけてしまい、前途多難のスタートとなってしまいました。役員一同これからも協力し合いながら前向きな支部運営を目指したいと思っております。ご支援のほど、よろしく申し上げます。

さて、当支部では来年2月11日午前10時30分より、支部大会と同じ会場である岩手県盛岡市「プラザおでって」で講習会を開催します。講師は高橋多喜子先生をお迎えします。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。



関東支部 ——— 近 況 ———

事務局長 加藤美知子

本年4月から、支部の幹事が新しく入れ替わりました。支部長に村林信行、副支部長に郡司正樹、事務局長として私が就任いたしました。さらに、よりスムーズな運営をはかるために、事務局補佐として小柳玲子と根岸由香の二人が任命されました。全国の支部のなかでも最大数の会員を擁する支部であるだけに、運営において厳しい面もありますが、支部会員皆様からのお力添えを得ながら、音楽療法の発展の一翼を担っていかれたらと思っております。

さて、本年12月6日（土）・7日（日）には、茨城県つくば市のつくば国際会議場において、第7回関東支部講習会・地方大会が開催されます。大会テーマは「音楽療法 和・輪・笑（わ） ～サイエンスの街つくばからの発信～」となっております。また、2009年12月5日（土）・6日（日）は、東京都の会員が担当となり、埼玉県川越市の東邦音楽大学川越キャンパスを会場として、地方大会を開催することが決定され、すでにその準備が始まっております。

今後の関東支部の動きを、どうぞ温かい目で見守ってくださるようお願い申し上げます。

信越・北陸支部 — 近況 —

事務局長 小林 和子

◆信越・北陸支部 第6回学術大会の報告

去る5月31日(土)～6月1日(日)に福井県の仁愛女子短期大学において、野尻恵美子先生(仁愛女子短大)を大会長として、信越・北陸支部第6回学術大会が開催されました。

5月31日(大会1日目)は支部総会を行った後、貫行子先生(仁愛女子短期大学客員教授)による「認知症予防を目指した高齢者音楽療法の効果と可能性」と題した公開講演会。続いては阪上正巳先生(国立音楽大学)、鈴木千恵子先生(玉川大学)、北本福美先生(金沢医科大学)をお招きし、「日本における音楽療法士の将来像」というテーマでシンポジウムを実施。これは大会のテーマでもあり、お立場の異なる先生方のご意見をいただくことができました。

6月1日(大会2日目)は公開事例検討会からスタート。発表者の実践報告に対し、コメンテーターを初日のシンポジストの先生方、貫行子先生、森俊之先生(仁愛大学)、前田登志枝先生(長野医療衛生専門学校)にお願いし、それぞれの事例について様々な助言をいただきました。

続いて野尻恵美子先生より「仁愛女子短大における障害児の音楽療法」の紹介があり、後半は石村真紀先生(相愛大学)による「響きあいをもとめて～臨床における即興のあり方についての考察～」というテーマのワークショップを行いました。会場の参加者も実際に即興の楽しさ、素晴らしさを体験することが出来る内容でした。

お招きした諸先生方には本当に素晴らしいお話をしていただき、大変充実した大会でした。

◆次回支部学術大会について

信越・北陸支部 第7回学術大会

宮本啓子先生を大会長として、石川県加賀地域の開催で調整中。

2009年5月30日(土)、31日(日)の予定



東海支部 — 近況 —

支部長 都築 裕治

① 東海支部は支部役員選挙を受け、2008年4月より新体制となりました。任期は2010年3月31日までの2年間です。支部役員は20名で、その中から以下のものが三役に選任されています。

支 部 長：都築裕治

副支部長：堀田喜久男

事務局長：栗林文雄

② 下記要領にて第8回東海支部大会を開催予定です。

日 時：2009年3月15日(日)

10:00～16:00

場 所：中部学院大学(各務原キャンパス)



近畿支部 — 近況 —

支部三役会

第8回近畿学術大会は2009年3月21日(土)22日(日)に大阪音楽大学にて開催されます。今回は会場に余裕がありますので他支部会員及び非会員も事前申し込み可能となりました。(研究発表は支部会員に限ります。)詳細は近日中に近畿支部ホームページに掲載いたしますのでご覧ください。<http://www.jmtak.com>

第8回近畿学術大会問い合わせ専用アドレス kinkitaikai8@jttk.zaq.ne.jp

第8回近畿学術大会問い合わせ専用FAX 06-6428-0595

2010年度の第10回学術大会を近畿支部にて開催することになりました。記念すべき第10回ですので、会員諸氏の心に残る充実した大会となるよう、支部の総力を挙げて準備を進めてまいります。開催場所は神戸国際会議場及び隣接するポートピアホテル(開催日時2010年9月24・25・26日)です。神戸空港に近く、新幹線の神戸駅からも30分ほどで到着できる交通至便の場所です。今からご予約に入れておいていただけましたら幸いです。

中国支部 — 近況 —

支部長 武田千代美

中国支部は、去る5月24、25日の両日、山口学芸大学（山口県山口市）において、第8回支部大会・第12回講習会を開催しました。基調講演に松井紀和先生をお迎えし、ご経験豊かな先生の音楽療法観を拝聴いたしました。講習会では、「人間の発達」「民俗音楽」「言語療法」について、それぞれの専門分野から三名の先生方にご講演いただきました。支部内外から、たくさんのご参加をいただき、無事盛会に終えることができました。

開催に際しまして、多くの皆様にご協力いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

第13回講習会は、11月30日（日）、松江テルサ（島根県松江市）において開催されます。1、中島恵子先生「高齢者の音楽療法」 2、松原秀樹先生「アサーション」 3、若尾 裕先生「即興演奏について」の3講座を予定しております。皆様のご参加をお待ちいたしております。

ニューズレターは、第17号を10月に発行予定です。総会報告、近隣で開催予定の講習会情報、音楽療法「学びの窓」、会員の声など盛りだくさんでお届けしたいと思います。

支部ホームページもどうぞご覧下さい。



四国支部 — 近況 —

事務局長 三崎めぐみ

去る9月28日（日）に、香川にて第5回支部大会が開催されました。この大会には四国内の方だけでなく、九州、中国、近畿、関東からも参加があり、楽しく有意義な一日になったのではと思っています。さて、8月末川崎にて行われました全国大会でお知らせしましたように、四国支部は次期大会を担当させていただくことになりました。開催地松山では、大会長板東浩、実行委員長藤井澄子を中心に大会に向け、よい大会にしようとして着々と準備を進めております。みなさん、青い国四国へどうぞおいでください。そろそろ来年のスケジュール帳購入の時期になります。どうぞ2009年9月11～13日は松山全国大会とご記入ください。



九州・沖縄支部 — 近況 —

支部広報役員 池田 憲治

<2008年度支部講習会>報告

2008年6月8日に川谷医院精神科医の諸江健二先生を講師にお迎えし、福岡サンパレスにて支部講習会が開催されました。九州各地から約60名の参加があり、期待と不安が入り混じる中『プレイバックシアター（以下PTと略）』についてパフォーマンススタイルでの実践紹介が開始されました。PTは、1975年にジョナサン・フォックスが創設し、日本では1998年にスクール・オブ・PT日本校が設立され広められ、現在50ヵ所以上（北海道・関東が精力的）で行われています。

PTの実際は、コンダクター（司会進行のような役割でアクターと観客の交流がスムーズにいくように仲立ちをする役割）・アクター（今回は3名 役者・演じる人）・ミュージシャン（打楽器やピアノで効果音を入れる人）・テラー（体験を語る人が参加者の中から選ばれる）が、ステージに配置され行われます。テラーが体験を語り、それを即興劇として再現するというシンプルな構造の中に、深い理論と確かな価値観が存在していました。実演は、言語だけでは伝えられないようなテラーとカンパニー（劇団員）のやり取りを見る事が出来ました。その中に、絶妙な呼吸があり音がある事で、感情が揺さぶられるようでした。アクターの感受性とそれを表現する能力の高さに感激しました。実演は、本当に素晴らしく「やらせ」と思う程でした。テラーが語った内容から、言語の奥底にある気持ちを汲み取り表現する瞬間芸術に涙しているテラーもいました。

この体験は、言葉や映像では伝えきれません。言葉じゃない世界で、いつの間にか『人が人を感じあっている』『共鳴』している事の体験をする事が出来ました。今回の講習会では、貴重な体験と考える機会を頂きました。

受講者からも「PTの講習会を受け、とても驚き温かさを感じ感心した。状況や心情を劇で即表現する様は見事で、共感される事の大切さ、嬉しさを味わった。傷ついた方や病んでいる方がPTにより救われるだろうと、私にも感じられ嬉しかった。人の気持ちを分かち合えない方の多い現代社会にPTが役立つ事を望みたい。（八木）」などの声が寄せられた。

学会事務局からのお知らせ

■ 2008年度資格審査を申請された方へ

2008年10月15日までに提出された申請書につきまして現在審査中です。審査結果は11月末日までに通知されます。書類審査合格者は面接試験（12月13日（土）9時頃～16時頃、または12月14日（日）9時頃～16時頃のいずれか1日、約15分間）が東京にて実施されます。なお、面接日時の変更はできませんのでご承知おきください。

最終審査結果は2009年2月初旬に通知されます。

■ 2008年度資格更新審査および猶予を申請された方へ

2008年10月31日までに提出された更新および猶予申請の審査結果は2009年2月初旬に通知されます。

■ 「資格認定規則（申請書）」および「資格更新規則（申請書）」の取り寄せについて

240円切手を貼付した返信用封筒（A4サイズ、宛先明記）と500円の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、「認定規則請求」または「更新規則請求」として学会事務局へお申し込みください。

※「音楽療法士認定規則」の配布は会員限定ですので、非会員の方は入会手続き完了後の取り寄せとなります。

※資格更新の該当の方には当該年度の5月上旬までに、更新規則を全員に事務局から送付しますので取り寄せは不要ですが、早くご入用の方は上記方法でお取り寄せください。

■ 「カリキュラムガイドライン01」の取り寄せについて

120円切手を貼付した返信用封筒（B5サイズ、宛先明記）を同封の上、「カリキュラムガイドライン01請求」として学会事務局へお申し込みください。

■ 「抄録の書き方」のご購入について

研修・講習委員会編纂による「抄録の書き方（わかりやすい学会発表をするために）」が発行されています。（B5版76ページ、2006年8月23日発行）購入を希望される方は240円切手を貼付した返信用封筒（B5サイズ、宛先明記）と1,000円の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、「抄録の書き方請求」として学会事務局へお申し込みください。

■ 「音楽療法士（補）試験問題解説集」の取り寄せについて

2001年度から2007年度まで過去7回おこなわれました音楽療法士（補）認定試験の試験問題解説集が、年度別にそれぞれ発行されています。年度別の試験問題解説集は1冊1,000円です。

また、2001年度第1回から2005年度第5回までの5回分の音楽療法士（補）試験問題解説集を1冊にまとめた合冊版も発行されています。合冊版は1冊3,000円です。

購入を希望される方は、希望の試験問題解説集の年度と冊数（合冊版を希望の場合はその旨）を明記の上で、送料分の切手を貼付した返信用封筒（A4サイズ、宛先明記）と冊数分の合計金額の郵便為替（郵便局にて購入）を同封して、学会事務局へお申し込みください。為替は金額に応じて、1,000円の定額為替を必要枚数購入されても、合計金額の額面で普通為替を1枚購入されても、どちらでも結構です。なお送料は、年度別の試験問題解説集の場合、1冊200円、2冊240円、3～5冊390円、6～7冊580円です。合冊版1冊の送料は390円、合冊版1冊+年度別の試験問題解説集1～2冊の場合は580円です。

■ 学会誌バックナンバーのご購入について

日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌のバックナンバー購入につきましては、学会事務局では取り扱っておりませんので下記へお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 アカデミア・ミュージック株式会社
TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634

■ 会費（年会費）納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いいたします。昨2007年度分未納の方はそのまま放置されますと2009年3月末にて会費未納退会となります。この場合再入会はできません。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円
購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円／1口
振込先 郵便振替口座 ○加入者名：日本音楽療法学会
○口座番号：00120-9-657711

■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載しています。有償のものに限定しますが、求人情報を事務局へお寄せください。

これは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。

■ お知らせ

9月に会員の皆様へ「お詫びとお知らせ」の葉書をお送りしましたが、文中「今後の開催予定」欄に以下の支部大会情報が入っておりませんでした。追加してお知らせいたします。

東海支部学術大会 2009年3月15日（日）

■ 「団体総合補償保険」のご案内

遅れておりました「団体総合補償保険」の受付準備が整いましたので、パンフレットを同封してご案内いたします。

（日本音楽療法学会ニュース15号18ページ「渉外委員会からのお知らせ」をご参照ください。なおこの文中にあるQ&Aは今回同封しておりません。）

この保険は任意加入ですので、ご希望の方は2008年12月1日まで必着で手続きを完了してください。

この保険についてのご質問は学会事務局は対応できませんので、ご質問などは保険パンフレット裏表紙記載のお問い合わせ先をお願いします。